

農林漁業のうごき

京都府 No.193 令和 5 年

海洋調査船「平安丸」



新船 完成



フラッグチェンジ



ウインチ操作室



機関室



操舵室

内容

特集 1	令和5年度 農林水産関係当初予算の概要	2～5
特集 2	京都府農林水産ビジョンを改定しました	6
特集 3	京都フードテック基本構想を策定しました	7
特集 4	京都府みどりの食料システム基本計画を策定しました	7
特集 5	海洋調査船「平安丸」の新船が完成しました	8
特集 6	「未来につなぐ京の木府民会議」設置記念フォーラムを開催	8
特集 7	令和4年度きょうと食の安心・安全フォーラムを開催	9
特集 8	3年ぶりに「京都山キッズ交流会」を開催	9
トピックス	就業・就農に向けたセミナーを開催 / 全国優良畜産経営管理技術発表会で府内肉用牛農家が発表 / ICTを活用した野生鳥獣被害対策 / コットンフラワーが初出荷されました / 京の食文化の語り部講演会を開催 / 府民税事業を活用して危険木の撤去等を支援しています	10～11
シリーズ	農林水産技術センターの研究紹介 第17回 畜産センター / 海洋センター	12
地域の取組	大原やさい研究会の環境にやさしい農業の取組紹介 / 「お茶の京都を知る！見る！聞いてみる！～移住者と笠置町・和束町・南山城村を巡る～」を開催 / 黒大豆の排水対策は大丈夫?! システムで対策を診断 / 治山と砂防が連携した防災工事が完成 / 森林・林業・木材研修会等の開催 / 果樹のスマート農業等新技术に係る取組	13～15
シリーズ	学び舎へようこそ！ 第4回 畜産人材育成研修制度	16



令和5年度 農林水産関係当初予算の概要

京都府では、新型コロナウイルス感染症対策や原油価格・物価高騰対策を引き続き実施していくとともに、1年前倒して改定した「京都府総合計画」の内容を踏まえ、「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つの視点に基づく取組を推進していくこととして予算を編成し、予算規模は、一般会計で前年度当初予算比2.9%減の約1兆302億円を計上しました。

農林水産分野においては、改定した「京都府農林水産ビジョン」の5つの「重点戦略」に関する事業や物価高騰対策など、希望と活力に満ちた農林水産業や農山漁村を実現するための取組を計画的かつ総合的に推進する予算として一般会計で約185億円を計上しました。

【戦略1】フードテックと基盤強化で農林水産業の夢と安心を創造する

<①先端技術の活用による農林水産業の成長産業化>

■京都フードテック推進事業 【新規 1億9,420万円】

京都の食産業の高付加価値化と競争力強化を図るため、フードテック^(※)に関する研究機関のネットワークの形成や、食関連事業者のニーズの集約、フードテックとのマッチングによる新商品・サービスの開発に向けた取組を支援することで、京都ならではのスマート技術の実装や開発商品の販路開拓など、農林漁業者・食関連事業者に還元する仕組みを構築する。

(※) フードテック：社会課題の解決に資する食分野の最先端技術の総称

■京都みどりの食料システム戦略推進事業 【一部新規 3億2,968万円】

農林漁業・食品産業の持続的発展と食料の安定供給の確保に向け、京都府みどりの食料システム基本計画に基づき、環境負荷低減事業活動を推進するため、有機農産物等の生産に係る推進協議会の設置や環境負荷低減事業活動に取り組む産地の形成等を支援する。

(新規) 環境負荷低減事業活動に必要な機械等の導入を優先的に採択する「優先枠」を新設

<②京都の特長を生かした生産力の強化>

■集落連携100ha農場づくり事業 【継続 7,635万円】

メガ団地（100ha農場）を形成する営農モデルを構築して持続可能な地域農業を創出するため、複数集落の組織化や農地管理の分離・委託による規模拡大・収益力向上及び企業連携による人材確保の取組を支援する。

■京都農業経営強化事業（一部再掲） 【継続 1億542万円】

ブランド京野菜など収益性の高い園芸産地を育成するため、園芸用パイプハウスや生産・出荷調整用機器の整備等を支援する。

<③安心・安全をもたらす基盤づくり>

■農林水産業基盤整備事業 【継続 42億8,716万円】

農林水産業のイノベーション実現と安心・安全な地域社会を実現するため、生産基盤の整備や、農山漁村と森林の防災・減災対策を実施する。

■盛土対策総合推進事業 【新規 4,300万円】

「宅地造成及び特定盛土等規制法」に基づき、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制するため、規制区域の指定に必要な基礎調査等を実施する。

■きょうと「食の安心・安全」確保事業……………【継続 188万円】

食の安心・安全を確保するため、食品表示の監視や研修会開催などの事業者支援、食に関する情報提供等を実施する。

【戦略2】 森林を適正に管理し、林業の発展と豊かな森を実現する

<①木材サプライチェーンの再構築と林業経営の安定化>

■森林経営管理制度市町村支援事業（森林環境譲与税活用）……………【一部新規 6,780万円】

森林経営管理制度^(※)の円滑な運用のため、市町村への技術的支援や職員研修の実施など、市町村が行う取組への支援を強化する。

（新規）市町村職員が森林所有者への制度等の説明に使用する動画を作成し、制度周知の取組を支援

（※）森林経営管理制度：森林を市町村が適正に管理するため、林業経営の適否に応じて意欲と能力のある林業経営者に委託又は市町村自ら経営管理を行うもの

■「京の木」循環利用総合対策事業（森林環境譲与税活用）……………【継続 6,450万円】

林業・木材産業の振興による森林資源の循環利用を推進するため、川上から川下までの連携による府内産木材の安定した需給体制を構築する。

（拡充）林業事業者が実施する主伐の伐採・集積への支援等に係る予算増額により取組を強化

■林業「森世紀」創造戦略事業（生産・販売力強化対策）（豊かな森を育てる府民税活用）……………【継続 2億4,442万円】

森林防災機能の強化と府内産木材の利用促進や競争力強化を図るため、防災・減災を目的とした森林整備や里山保全活動を実施するとともに、公共施設や民間施設、住宅における木造化・木質化や、高性能林業機械の導入など伐採と再生林の低コスト化、更には、特用林産物の生産振興などの取組を支援する。

（拡充）川上から川下までのサプライチェーンを構築した事業者が府内産木材を利用する場合の補助率嵩上げや、特用林産物の生産振興に係る予算増額により取組を強化

■次世代林業を担う林業事業者総合支援事業……………【継続 3億6,387万円】

生産性向上と府内の素材生産量の増加により、林業の成長産業化と適切な森林管理を両立させるため、府内の林業を担う林業事業者の経営をソフト・ハードの両面から総合的に支援する。

■豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業（豊かな森を育てる府民税活用）……………【継続 2億円】

森林の多面的機能を維持・増進するため、市町村が地域の実情に応じて実施する森林の整備や保全等の取組に対して交付金を交付する。

<②山地災害の防止・低減のための対策強化>

■森林災害防止事業（一部再掲）（一部豊かな森を育てる府民税活用）……………【継続 24億563万円】

森林が有する災害防止機能を高めて府民の安心・安全を確保するため、間伐や風倒木除去等による森林整備及び土砂や危険木の流出を抑制するための治山施設の設置等を実施する。

【戦略3】 オープンイノベーションでブランド価値を進化させる

<①京もののブランド戦略の新展開による付加価値の向上>

■「京の食」ブランド総合戦略事業（一部再掲）……………【継続 2億395万円】

国内外における府内産農林水産物・加工品（京もの）の新たなブランド価値を創造・付加し、他産地との優位性を確保するため、「京都食ビジネスプラットフォーム」の活動を通じて、産学公連携による新たな商品・サービスの研究開発や京ものサプライチェーンの構築、「京もの」一体での海外販路拡大等の取組を支援する。

■「京の米」ブランド力向上対策事業（一部再掲）……………【継続 7,068万円】

京都府オリジナルブランド米「京式部」や「京の米」の新たな市場・販路拡大を展開するため、「京式部」のブランド化を戦略的に進めるとともに、「京の米」の高品質化と知名度向上を推進する。

■宇治茶ブランド世界発信事業（一部再掲）……………【継続 3,520万円】

宇治茶の新たな市場・販路拡大を図るため、輸出に対応した産地の育成や「宇治種」への改植を推進するとともに、宇治茶のプレミアムブランド化や商標対策、更には「京都府宇治茶普及促進条例」に基づき、茶業振興や世界文化遺産登録に向けた取組を展開する。

■未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業……………【継続 1,592万円】

次世代の担い手の育成により漁業・漁村の活性化を図るため、府内産水産物の生産設備の導入や流通拡大に向けた取組を支援するとともに、新規就業者のスキルアップ研修等を実施する。

<②京都ブランドを支える流通の基盤づくり>

■「食の京都」推進事業……………【一部新規 1,770万円】

府域共通の観光資源でもある「食」を目的とした周遊観光を促進するため、「食の京都」をキーワードに地域のいちおし食材を活用した地域の魅力向上や、消費地での認知度向上の取組を支援する。

（新規）京都市中央卸売市場第一市場内に、府市協調で「食の京都」情報発信拠点を設置

■きょうと食いく先生活動拡大・強化事業……………【継続 894万円】

学校・保育所・地域等での体験型食育を強化し、地域や府民の食育を推進するため、「きょうと食いく先生」の派遣や地域の食育活動の支援、若い世代を対象とした食育出前講座等を実施する。

【戦略4】人づくりの裾野を広げ、産業・地域を支える多様な人材を育む

<①意欲ある経営者の育成・支援体制の確立>

■京都農人材育成強化事業……………【継続 4億8,231万円】

高度な経営感覚を持つ農人材の育成により、攻めの農業への転換を図るため、オール京都体制で「京都農人材育成センター」を運営し、相談から就農までをワンストップで一貫してサポートするとともに、京の農業応援隊（農業改良普及センターなど）による技術研修等の伴走支援に加え、発展段階に応じた経営研修を一体的に実施する。

（拡充）丹後地域の果樹園を継承する担い手を育成し、スマート技術の導入や農地集積等を支援

■京都畜産未来の担い手づくり事業（一部再掲）……………【継続 411万円】

畜産の担い手を確保し、後継者の育成を推進するため、畜産経営を法人化することで対外信用力の向上や就業条件の改善を図るとともに、畜産法人等への就業者や新規就農希望者に対する研修等を実施する。

■未来へ羽ばたく京都の漁業を育てる事業（再掲）……………【継続 1,592万円】

次世代の担い手の育成により漁業・漁村の活性化を図るため、府内産水産物の生産設備の導入や流通拡大に向けた取組を支援するとともに、新規就業者のスキルアップ研修等を実施する。

■次世代林業を担う林業事業体総合支援事業（再掲）……………【継続 3億6,387万円】

生産性向上と府内の素材生産量の増加により、林業の成長産業化と適切な森林管理を両立させるため、府内の林業を担う林業事業体の経営をソフト・ハードの両面から総合的に支援する。

<②農林水産業・農山漁村を支える人材の裾野拡大>

■集落連携100ha農場づくり事業（再掲）……………【継続 7,635万円】

メガ団地（100ha農場）を形成する営農モデルを構築して持続可能な地域農業を創出するため、複数集落の組織化や農地管理の分離・委託による規模拡大・収益力向上及び企業連携による人材確保の取組を支援する。

■京都モデルフォレスト推進事業 ……【継続 480万円】

府民参画、府民協働による森づくりを推進するため、森林所有者、ボランティア団体、企業等が連携した森林づくりの活動を支援する。

【戦略5】人と資源の活用で、持続可能な農山漁村コミュニティを創る

<①持続的で活力に満ちた地域づくり>

■日本型直接支払事業 ……【継続 14億3,270万円】

農業・農村の多面的機能の維持・発揮を図るため、国の日本型直接支払制度等を活用し、地域の共同活動や中山間地域における農業生産活動等を支援する。

<①持続的で活力に満ちた地域づくり>

<②地域の独自性や多様性を生かしたビジネスの展開>

■京のむらづくり推進事業 ……【一部新規 1億2,960万円】

人口減少に対応できる地域運営体制づくりを推進するため、農地や集落内の施設維持等の地域共同活動を再編・合理化し、省力化を図るとともに、地域運営体制の形成に向けた取組等を支援する。

(新規) 地域共同活動の「選択と集中」による管理負担軽減に資する取組、地域運営体制の形成に向けた取組を支援

■「移住するなら京都」推進事業 ……【継続 1億8,650万円】

多様なニーズに対応した移住の促進により、農山漁村地域の活性化を推進するため、「京都府移住の促進及び移住者等の活躍の推進に関する条例」に基づき、移住から定住に至るまでの各段階に応じ支援する。

(拡充) 移住者が空家を取得等した場合の住宅改修支援に係る予算増額により取組を強化

■有害鳥獣総合対策事業 ……【継続 5億5,150万円】

農作物被害対策を推進するため、ニホンジカ等の捕獲強化、捕獲個体の処理施設や防護柵の整備、担い手育成及びジビエ利用拡大に向けた取組等を支援する。

令和4年度 2月補正予算(冒頭提案分)の概要

コロナ禍の長期化や物価高騰等を踏まえた中小企業者や府民生活への支援に取り組むとともに、防災・減災などの安心・安全対策のため、公共事業等を国の補正予算も積極的に活用して進めるため、府議会2月定例会で冒頭提案を行い、令和4年度2月補正予算において、一般会計で約25億円を計上しました。このうち、農林水産分野では約3.5億円を計上しました。

■農林水産業経営強化緊急支援事業 ……【新規 3,000万円】

農林水産業者等が中長期的に安定した経営の実現を図るため、生産コストの削減や販売力強化に繋がる取組を緊急的に支援する。

■京都耕畜連携システム構築事業 ……【新規 1,500万円】

飼料作物と堆肥を循環させる耕畜連携システムを構築し、持続可能な農業の推進による安定した経営の実現を図るため、府特産物向けの成分調整型ペレット肥料を開発するとともに、飼料作物及び堆肥の広域流通に向け保管・輸送経費を支援する。

■農林水産業基盤整備事業 ……【継続 2億9,500万円】

農林水産業のイノベーション実現と安心・安全な地域社会を実現するため、生産基盤の整備や、農山漁村地域と森林の防災・減災対策を実施する。

■盛土対策総合推進事業 ……【新規 1,000万円】

「宅地造成及び特定盛土等規制法」に基づき、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制するため、規制区域の指定に必要な基礎調査等を実施する。

特集
2

京都府農林水産ビジョンを改定しました

長期化するコロナ禍や今般の資材高騰などの社会情勢の変化を踏まえ、府農林水産行政の運営指針となる「京都府農林水産ビジョン」を令和5年3月に改定しました。

京都府農林水産ビジョン –希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創–

京都府における農林水産施策を計画的かつ総合的に進めるため、京都府総合計画における農林水産分野の将来像や施策の方向性を体系化・具体化して示すものです。

＜計画期間＞ 令和元年度から令和10年度まで（目標年度：令和8年度）

農林水産業・農山漁村の将来ビジョン –2040年に目指す姿–

ビジネス

魅力的な「産業」として夢あふれる農林水産業のイノベーションを実現



コミュニティ

地域の人々の希望と活力に満ちた「農山漁村」を実現



セキュリティ

防災対策や食料の安定供給、食の安全性確保など「安心・安全」な地域社会を実現

5つの重点戦略 –将来ビジョンを実現するため、今後4年間で集中展開–

戦略1 フードテックと基盤強化で農林水産業の夢と安心を創造する

- ・最先端技術と京都の食文化が融合した「京都ならではのフードテック」で、成長産業化を促進
- ・環境負荷の低減や京都の特長を生かした生産力強化で、持続的な農林水産業を推進
- ・農地やため池、漁港等の生産基盤の適正な管理と、食の安心・安全を守る取組を着実に推進

戦略2 森林を適正に管理し、林業の発展と豊かな森を実現する

- ・森林所有者への啓発や市町村への技術的サポートで、手入れ不足の森林の整備を加速
- ・木材サプライチェーンの再構築と府内産木材の利用促進で、森林資源の循環を促進
- ・治山施設の設置や危険木の処理等を進め、山地災害対策を強化

戦略3 オープンイノベーションでブランド価値を進化させる

- ・異業種連携で、中食需要や健康志向に対応した商品開発を促進し、新たなブランド価値を創造
- ・「京もの」の輸出を含む販路の多角化や、「食の京都」PRによる地域食材の消費拡大を推進

戦略4 人づくりの裾野を広げ、産業・地域を支える多様な人材を育む

- ・人材育成拠点の機能強化や伴走支援体制の充実で、新規就業者の確保や経営の発展を総合支援
- ・半農半Xや定年帰農者、若い世代への情報発信を強化し、担い手の裾野を拡大
- ・話し合いによる地域農業の将来像の明確化を支援し、持続的な農業構造への転換を推進

戦略5 人と資源の活用で、持続可能な農山漁村コミュニティを創る

- ・地域活動の最適化や外部人材の活用、移住の総合支援で、活力に満ちた地域づくりを推進
- ・地域の多様な資源を生かしたビジネス展開で、地域に雇用と所得を創出

特集
3

京都フードテック基本構想を策定しました

特集2 農林水産ビジョン 戦略1 関連

京都の食文化や高い栽培技術と食に関する最先端技術を融合させた京都ならではのフードテックを開発し、府内に普及させる構想を策定しました。

本構想を基に、京都府の農林水産業の特徴に適応したスマート技術の開発・実装や新たなブランド価値を付加した加工食品の開発・商品化など、京都府の食関連産業の課題解決と振興につながる取組を推進していきます。

<計画期間> 令和4年度(構想策定年度)から令和10年度まで



▼構想のポイント（構想実現のための方策）

方 策	具体的な取組（例）
京都ならではのフードテックに関する研究開発	京都府農林水産技術センターの研究テーマを重点化するほか、フードテック構想の推進拠点を整備
大学、研究機関、企業等とのネットワーク構築	大学、研究機関、企業等の研究者・開発担当者による研究プラットフォームを設置し、共同研究を推進
新商品・新サービスの創出支援	コーディネーターの配置やイベントの開催などにより、研究シーズと企業ニーズをマッチング

流通・ブランド戦略課 食品産業振興係 TEL：075-414-4964

特集
4

京都府みどりの食料システム基本計画を策定しました

特集2 農林水産ビジョン 戦略1 関連

京都府と府内26市町村が共同で、環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(令和4年法律第37号)に基づく「京都府みどりの食料システム基本計画」を策定しました。

本計画は、京都府における農林漁業・食品産業の持続的発展と食料の安定供給の確保に向けて、化学肥料・化学農薬の使用低減など環境負荷低減に取り組む農林漁業者の事業活動を支援するとともに、地域のモデル的な取組を推進するものです。

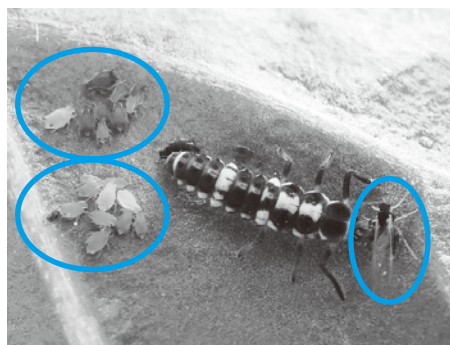
本計画では、同法に基づき新たに設けられた、環境負荷低減に取り組む農林漁業者の計画を知事が認定することとしており、令和5年4月から認定を開始する予定です。

<計画期間> 令和5年度から令和9年度まで

▼環境負荷の低減に関する目標

指 標	基準 (令和3年)	目標 (令和9年)
環境負荷低減活動計画の認定者数(件)	—	1,000
環境にやさしい農業 ^(※) の取組面積(ha)	2,160	3,000
うち 有機農業の取組面積(ha)	295	400

(※) 化学肥料・化学農薬を慣行基準から3割以上低減する取組の総称(有機農業、特別栽培米等)



天敵による害虫防除(青丸が害虫)

農産課 環境にやさしい農業推進係 TEL：075-414-4944

特集
5

海洋調査船「平安丸」の新船が完成しました

令和5年1月に、4代目となる京都府海洋調査船「平安丸」が完成しました。

本船は、新たに海底地形探査装置や深海対応の水中ドローンといった最新鋭機器を搭載するとともに、日本海の冬期の厳しい環境でも調査を行えるように、荒天下でもノイズが出にくく鮮明な映像が得られる最新鋭のレーダーを装備するなど、旧船に比べて、調査効率や安全性が向上しています。

今後は、本船を最大限に活用し、魚介類の生息数等資源評価の精度向上や、より効率的な漁法の研究など、漁業関係者をはじめ府民の皆様に関与する調査・研究を進めていきます。



新たに建造した4代目「平安丸」

水産課 漁政企画係 TEL：075-414-4992

特集
6

「未来につなぐ京の木府民会議」設置記念フォーラムを開催

令和4年4月に施行した「京都府府内産木材の利用等の促進に関する条例」に基づき、府内産木材利用に係る気運醸成と利用促進を図るため、「未来につなぐ京の木府民会議」を新たに設置しました。

令和5年1月28日(土)には、設置に伴う記念フォーラムを開催し、100名を超える府民や事業者等の参加のもと、世界的建築家の坂 茂氏の基調講演などがあり、木材の魅力や環境保全の大切さを共有しました。

今後も引き続き、府民の皆様に関与する府内産木材を使っていただけるよう、建物や木製品への支援や情報発信のほか、安定供給できる体制づくりなどの取組を進めていきます。



どなたでも会員になっていただけます！イベント情報等を提供します。



記念フォーラムの様子

未来につなぐ京の木府民会議

検索

林業振興課 木材産業係 TEL：075-414-5009

特集
7令和4年度
きょうと食の安心・安全フォーラムを開催

京都府では、食品関連事業者等と消費者との「食の信頼づくり」を推進しています。

この度、令和5年2月7日(火)に、「きょうと食の安心・安全フォーラム」を開催し、京都府や食品関連事業者等における食の安心・安全に関する取組を紹介するとともに、消費者の方々との意見交換を行い、その様子をオンラインで同時配信しました。

当日は、約100名の府民の皆様にご参加いただき、参加者からは「事業者の方の『消費者によりよい商品を届けたい』という気持ちが伝わってきた」「生産者や事業者と消費者が交流する場は重要だ」との声が聞かれました。

今後も消費者と食品関連事業者等との交流の機会を通じて、「食の信頼づくり」を推進していきます。

〈参加事業者〉

(株)たにぐち (菓子製造・販売/京都市)

(有)三和鶏園 (鶏卵生産・販売/舞鶴市)



きょうと食の安心・安全フォーラムの様子

農政課 食の安全・食育係 TEL: 075-414-5652

特集
8

3年ぶりに「京都山キッズ交流会」を開催

豊かな森林を未来へ引き継ぐため、次代の森林づくりを担う子ども達の育成を図る「京都山キッズ交流会」を、令和4年9月11日(日)に洛西散策の森にて開催しました。今回は、子ども66名を含む97名の参加があり、森林散策や種とばし大会を実施し、自然と触れ合う子ども達の生き活きとした様子が見られました。

終了後に実施したアンケートでは、「森の大切さがわかった」「木や植物の話が面白かった」「もっと森林について学びたい」等の声が多く聞かれました。

これからも、森林や環境について、体験・学習してもらえる機会をつくり、森林の魅力を発信していきます。



森林環境学習



全体写真

森の保全推進課 モデルフォレスト推進係 TEL: 075-414-5014

トピックス

就業・就農に向けたセミナーを開催

令和5年2月18日(土)に、農林漁業の現場で働くことに関心のある方を対象にした「京都府の農林漁業への就業・就農の集い」を開催しました。

講演では、農業法人の経営者から“就農のポイント”が語られ、その後の個別相談では、就業・就農を希望する参加者の疑問に、経営者が親身になって相談にのりました。

こうした参加者と経営者との交流を通し、農林漁業従事に必要な心構えを学び、理解を深めて頂くことで、府内への就業・就農につなげていきます。



就業・就農に向け、熱心に相談する参加者
(京都市内会場)

経営支援・担い手育成課 新規就業・人材育成係 TEL:075-414-4912

全国優良畜産経営管理技術発表会で府内肉用牛農家が発表



優秀賞を受賞した
(株)いちがお畜産 大江夫妻(左・中央)

株式会社いちがお畜産(京丹後市)は、令和4年11月25日(金)に、東京で行われた発表会において、和牛の放牧を活用した集落の景観保全や水田機能の保持といった「丹後牛の里」の理念に基づく長年の取組を発表しました。

特に、学生や都市住民と連携した獣害防止柵の設置や竹やぶの手入れ等のふるさと共援活動を通じた地域活性化の取組が高く評価され、全国8事例の中から、優秀賞を受賞しました。

和牛の肥育や繁殖管理を担当する後継者が育っており、今後も優良な京都産和牛の子牛生産に向けて、益々の活躍が期待されます。

畜産課 畜産振興係 TEL:075-414-4981

ICTを活用した野生鳥獣被害対策

京都府では、野生鳥獣による農作物被害の大半を占めるイノシシ、ニホンジカ、ニホンザルを効率的に捕獲するため、国の鳥獣被害防止総合対策交付金により、遠隔操作できる捕獲檻などのICTを活用した新技術の導入を支援しています。

現在、府内全域でスマートフォンなどから操作できるICTわなの設置が進められており、見回りなどの人的負担の軽減に役立っています。

今後も、こうした新技術の導入を促進し、効果的な野生鳥獣被害対策に取り組んでいきます。



遠隔操作可能な捕獲檻(伊根町提供)

農村振興課 野生鳥獣係 TEL:075-414-5022

トピックス

コットンフラワーが初出荷されました

京都府では、府内産の花きの新たな有望品目として「コットンフラワー（綿花）」の生産振興、PR活動に力を入れています。

令和4年10月末には、市場に初出荷しデビューを果たしました。外国産とは異なる枝振りの特徴や綿の白さを際立たせる丁寧な調製作業が高評価を得ました。

また、子ども向けワークショップや京都府農林水産フェスティバルでの展示など需要拡大に向け、花き振興ネットワークとして様々な取組を推進しています。



府内の花屋さんを対象にした講習会



枝が長く、生け込み等幅広い活用が可能

農産課 京野菜振興係 TEL：075-414-4953

京の食文化の語り部講演会を開催



聖護院だいこんの畑からのオンライン中継を視聴する参加者

府内産農林水産物の振興を図るため、令和4年12月20日(火)に、京の食文化ミュージアム・あじわい館にて小学生34名を対象に京野菜の講演会を開催しました。

久御山町の聖護院だいこんの畑からのオンライン中継による生産者との意見交換や、「京の食文化の語り部」松田武子先生が“京野菜とは”“京野菜の歴史”などをテーマに講演を行い、京野菜への理解を深めてもらいました。

講演会に参加した小学生からは「もっと京野菜を食べたい」「京野菜について知れて良かった」等の声が聞かれました。

流通・ブランド戦略課 京もの販路開拓係 TEL：075-414-4941

府民税事業を活用して危険木の撤去等を支援しています

近年、台風や集中豪雨による災害が多発し、河川への倒木の流出や、下流地域での浸水被害も発生しています。

こうした災害を防ぎ、保安林等で森林の持つ公益的機能を十分高めるため、京都府では市町村と協力し、豊かな森を育てる府民税を財源とした「地域とつくる安心・安全な森整備事業」により、地域住民の皆様が取り組む倒木撤去などの対策を支援しています。



事業実施前の状況
(倒木等が散乱)



事業実施後の状況 (倒木等を整理)

森の保全推進課 森林土木係 TEL：075-414-5028

シリーズ 農林水産技術センターの研究紹介

令和4年度に取り組んでいる研究をご紹介します

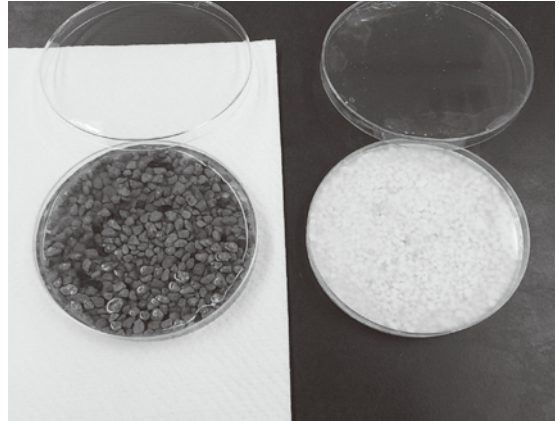
第17回 畜産センター・海洋センター

研究1：バイオセキュリティレベル向上を目指す散布型除菌剤の開発

今シーズンの鳥インフルエンザ国内発生数は過去最多となっており、府内の養鶏農家では、家畜伝染病予防のための鶏舎周囲の消毒を一層徹底しているところです。

畜産センターでは、防疫強化のため畜舎内外で使用でき安定して効果が持続する新たな消毒用資材が必要と考え、鳥インフルエンザウイルス等に効果があるヨウ素を軽石に保持させることで効果が持続する散布型除菌剤を、大学や企業と共同開発しました。

また、共同研究者がこの除菌剤を「ヨドックス粒」として商品化しており、今後は、従来からの消石灰による消毒に加え「ヨドックス粒」の活用を推進し、バイオセキュリティレベル向上を目指しています。



左：ヨドックス粒 右：消石灰

ヨドックス粒の特徴

消石灰と比べて飛散が少なく畜舎内でも使用できる。また、自然になじむ色で動物園等畜舎以外での使用にも適し、地域全体のバイオセキュリティレベルの向上が期待できる。

農林水産技術センター 畜産センター 研究・支援部 TEL：0773-47-0301

研究2：ブルーカーボン増大に向けたアカモク養殖技術の開発

ワカメやアカモク等の海藻類によって吸収された炭素は「ブルーカーボン」と呼ばれています。地球温暖化の原因となる二酸化炭素の削減に向け、このブルーカーボンを増やすための取組が世界中で行われています。

海洋センターでは、令和3年度から農林水産省の「脱炭素化社会の実現に向けたプロジェクト研究」に参画し、ブルーカーボンの増大に向けたアカモク養殖の技術開発に取り組んでいます。

養殖技術の向上による収穫量の増加及び安定化を通じて、二酸化炭素を効率的に吸収するための技術の確立を目指しています。



海面を覆い尽くすほど成長した収穫期直前の養殖アカモクの様子 (ドローン空撮画像)

農林水産技術センター 海洋センター 研究部 TEL：0772-25-3080

地域の取組

京都乙訓

大原やさい研究会の環境にやさしい農業の取組紹介

大原やさい研究会（会員25名）は、京都市左京区大原・静原地域で環境にやさしい農業を行う農業者の団体です。研究会では、有機JAS認証の取得や特別栽培農産物等の生産に取り組まれており、京都乙訓農業改良普及センターでは、化学農薬・化学肥料に頼らない栽培方法の講習や補助事業を活用した専用HPの開設等（左写真）について伴走支援しているところです。



大原やさい研究会のHP



大原やさい研究会の皆さん

会員が作る野菜は、「味が濃く美味しい！」とレストランのシェフや有機農産物バイヤーなど食のプロにも好評で、直売所「里の駅 大原」や「大原ふれあい朝市」で販売しています。

詳しくはHPをご覧ください→

大原やさい研究会

検索



京都乙訓農業改良普及センター TEL：075-315-2906

山城

移住現地セミナー「お茶の京都を知る！見る！聞いてみる！ ～移住者と笠置町・和束町・南山城村を巡る～」を開催

山城広域振興局では、特に人口減少が進んでいる相楽東部地域への移住を促進するため、令和5年1月21日（土）に移住現地セミナーを開催しました。

当日は、実際に移住された方や町村職員と一緒に3町村をバスで巡り、各町村の景色や暮らしを見たり、話を聞いたりしながら交流しました。近隣府県から子育て世代等7組12名の参加があり、参加者からは、「自然や人と人との距離の身近さに魅力を感じた」との声が聞かれました。

今後も、農村地域の活性化を図るため、市町村と連携して移住促進の取組を進めていきます。



石寺の茶畑見学（和束町）



「やまんなか」で交流（南山城村）

山城広域振興局 農林商工部 地域づくり振興課 TEL：0774-21-2186

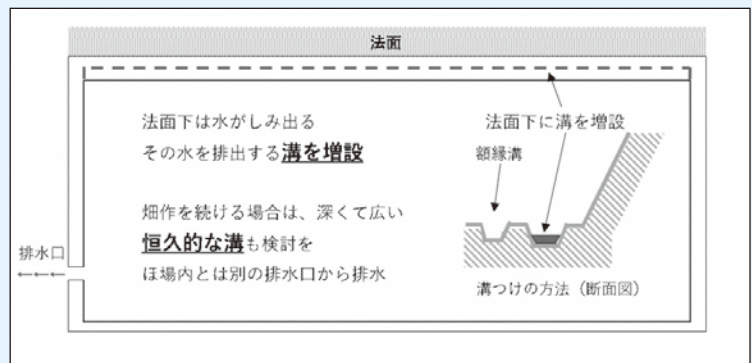
南丹

黒大豆の排水対策は大丈夫?! システムで対策を診断

近年、異常気象による豪雨や長雨などが多いため、黒大豆の栽培ではこれまで以上の排水対策が必要となっています。そこで、南丹農業改良普及センターでは、排水対策を適切に行うための診断システムを作成しました。

このシステムは、対策が十分かどうかをイラストと解説をもとに診断し、改善策を提案するものです。畑の準備時のほか、梅雨時期や大雨の対策も盛り込んでおり、様々な排水対策を画面を切替えながら見ることができます。

土寄せ時期を示す土寄せ判断システムも作成しているため、活用を検討される方は当普及センターまでご連絡ください。



診断システム画面のイメージ (ほ場の俯瞰図と排水溝の断面図)

南丹広域振興局 農林商工部 南丹農業改良普及センター TEL : 0771-62-0665

中丹

治山と砂防が連携した防災工事が完成

平成30年7月豪雨により、中丹管内（福知山市、舞鶴市、綾部市）では甚大な被害が発生しました。

その中でも舞鶴市上福井では、大規模な山腹崩壊により土石流が発生し、大量の土砂と流木が溪流内に堆積したため、周辺の住民に対して避難指示が出されました。

そこで京都府では、「治山・砂防連絡調整会議」により、上流の土砂等の発生源対策は治山事業で、下流の土石流対策は砂防事業で実施することとし、それぞれ所管する森づくり振興課と土木事務所が連携して対策を行ってきました。

令和2年度～4年度にかけては、治山事業として、治山ダム工（鋼製ダム）と山腹工（土留工・緑化工）を施工し、先に竣工した砂防事業と合わせてすべての防災工事が完成しました。

住民の皆様からは、完成した防災施設に安堵と喜びの声をいただいております。地域の安心・安全な暮らしに寄与することができました。



完成した治山施設（治山ダム工と山腹工）

中丹広域振興局 農林商工部 森づくり振興課 TEL : 0773-62-4621

丹後

森林・林業・木材研修会等の開催

建築について学ぶ地元高校生を対象に、立木が建築資材になるまでの工程や木材に関する知識を学ぶ林業・木材研修会を令和4年11月25日(金)に開催しました。

総勢39名の参加があり、生徒達は、森林の持つ公益的機能や木材価格等の説明を受けた後、森林整備の現場において、伐倒^(※1)や高性能林業機械による玉切り作業^(※2)、製材所において、丸太が角材になるまでの作業工程を見学しました。

また、府内産木材を使った木造建築物設計の入門冊子により地域材利用についての理解を深めました。

参加した生徒達からは、「林業機械の迫力や林内作業の大変さを感じることができた」「製材するにも工夫が必要」「感謝して木材を活用していきたい」等の声が聞かれました。

丹後広域振興局では、地域材利用を支える人材の育成に加え、森林を適正に管理する所有者の育成に係る研修会も並行して開催する予定です。



森林の持つ公益的機能の説明を受ける生徒達の様子

- (※1) 伐倒：立木を切り倒すこと
(※2) 玉切り作業：切り倒した立木を規定の長さに切断する作業

丹後広域振興局 農林商工部 森づくり振興課 TEL：0772-62-4306

丹後

果樹のスマート農業等新技术に係る取組

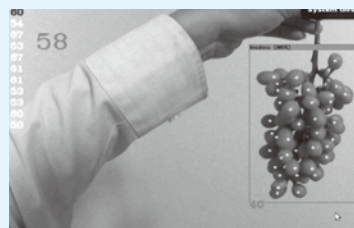
果樹栽培は、苗を植えてから収穫までに時間がかかること、手作業も多いことなどから、農業で最も人手が必要な分野であり、労働力不足の解消に向けて、スマート技術の導入による生産性の向上が求められます。

そこで、丹後農業改良普及センターでは、府内中小企業と京都府立大学とともに、AIを活用することで、ブドウ栽培の房づくりを支援する機器の開発を行いました。

また、ナシ栽培では、農家が袋かけ等の作業を省力化できる新たな仕立て方法である「ジョイント栽培^(※)」の現場を果樹農家とともに視察し、丹後地域への技術導入の機運を高めました。

今後、丹後地域において果樹農業が成長産業として次世代に後継できるよう、取組を進めていきます。

(※) ジョイント栽培：接ぎ木で樹と樹をつなげて樹勢を均一にするとともに動線を直線にする栽培方法



AIによる認識から約58粒と計数されたブドウ果房



ナシのジョイント栽培を視察する様子

丹後広域振興局 農林商工部 丹後農業改良普及センター TEL：0772-62-4308

シリーズ 学び舎へようこそ！ ～第4回 畜産人材育成研修制度～

京都府の農林水産業の担い手育成の取組についてインタビューを交えて紹介します

畜産業は農家の高齢化や減少が進んでいますが、家畜を飼う技術が必要など就農に係るハードルが高いことから、京都府では、新規就農者を確保・育成するため、令和2年度から綾部市の京都府農林水産技術センター畜産センターにおいて2年制の京都府畜産人材育成研修を行っています。

特に、2年目は、より実践的な内容で、研修生自ら飼育方針を決定し牛を育てる実習のほか、府内外の酪農家でのインターンシップ研修などを行います。研修終了後の就農支援にも力を注いでおり、府関係機関（畜産課、家畜保健衛生所、広域振興局、農業改良普及センター）や関係する市町村、農業協同組合等を構成員とする「京の畜産応援隊」が就農に必要な資金計画づくり等、就農の具体化をサポートしています。



栄養管理などの講義



飼養管理技術向上のための研修



搾乳技術向上のための研修

研修生随時募集中！

詳しくはこちらから



2年間で習得できること (各資格取得も可能)

- ①「基礎力」：畜産経営に必要な繁殖や家畜衛生知識など
- ②「経営力」：経営分析・労務管理・経営戦略など
- ③「実践力」：家畜飼養管理の技術など



研修生に「畜産人材育成研修制度の良さ」を聞いてみました

「研修生ひとりひとりに合わせた研修メニューが用意されている」「飼養管理技術だけでなく経営に関する知識も学ぶことができる」などの感想や意見があり、今後の就農に向け、研修内容が確実に研修生の身に付いています。

畜産課 畜産振興係 TEL：075-414-4983

京都府産農産物をもっと手軽に！

JALふるさとプロジェクト

JALふるさとプロジェクト企画において開発の府内産小豆を使用した「もへじ あんが美味しい贅沢ぶりん」を全国のカルディコーヒーファーム及び羽田・大阪空港で販売中です！

(在庫無くなり次第販売終了)



濃厚な卵ぶりんに丹波大納言小豆の粒を入れた水羊羹をのせ二層にした贅沢なぶりん

農産課 京の米・豆・保険係 TEL：075-414-4953

「京小麦の収穫祭」を開催中

京都府内を中心に2府7県のパン屋やラーメン店等で京都府産小麦を100%使用した商品を1週間毎のリレー形式で提供する「京小麦の収穫祭」を令和5年4月9日(日)まで開催中です！

是非、この機会に京小麦をご堪能ください。

詳しくはこちらから→
(公式インスタグラム)



発行/令和5年3月

編集/京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町 京都府農林水産部農政課 TEL：075-414-4898 E-mail：nosei@pref.kyoto.lg.jp

京都府人権啓発イメージソング「世界がひとつの家族のように」は、「お互い支え合うことの大切さ」をイメージした歌です。歌い広め、「いま、わたしたちにできること」を考えてみませんか。

公式ホームページ <https://kyoto-jinken.net/imagesong/>